

製品名: Rac1/2/3/CDC42 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16822**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	26kDa

抗原情報

遺伝子名	RAC3 RAC1; TC25; MIG5; Ras-related C3 botulinum toxin substrate 1; Cell migration-inducing gene
別名	5 protein; Ras-like protein TC25; p21-Rac1; RAC2; Ras-related C3 botulinum toxin substrate 2; GX; Small G protein; p21-Rac2; RAC3; Ras-related C3 bot
遺伝子 ID	5879/5880/5881/998
SwissProt ID	P63000/P15153/P60763/P60953
免疫原	抗血清はヒト Rac1/CDC42 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 38-87

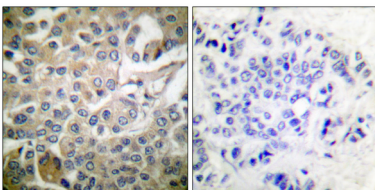
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は GTPase であり、低分子 GTP 結合タンパク質の RAS スーパーファミリーに属する。このスーパーファミリーのメンバーは、細胞増殖の制御、細胞骨格の再編成、タンパク質キナーゼの活性化など、多様な細胞内イベントを制御していると考えられる。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 2 つの転写バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2009 年 3 月]、ドメイン:エフェクター領域は DEF6 との相互作用を媒介します。、酵素制御:結合 GDP と遊離 GTP の交換を促進するグアニンヌクレオチド交換因子 (GEF)、GTP 加水分解活性を高める GTPase 活性化タンパク質 (GAP)、および GTPase からのヌクレオチドの解離を阻害する GDP 解離阻害剤によって制御されます。、機能:アイソフォーム B は、GEF 非依存性の GDP/GTP 交換が促進され、GTP 加水分解が阻害されますが、これは GTPase 活性化タンパク質によって部分的に回復します。アイソフォーム B は、GTP 依存的に PAK の GTPase 結合ドメインに結合できますが、全長 PAK には結合できません。これは、挿入によってエフェクター相互作用が完全には阻害されないことを示唆しています。、機能:活性 GTP 結合状態と不活性 GDP 結合状態の間を循環する、細胞膜関連の低分子 GTPase。活性状態では、さまざまなエフェクタータンパク質に結合して、分泌プロセス、アポトーシス細胞の貪食、上皮細胞の分極、および増殖因子によって誘導される膜ラッフルの形成などの細胞応答を制御します。、類似性:低分子 GTPase スーパーファミリーに属します。Rho ファミリー。、細胞内位置:細胞膜の内面。おそらく C 末端システインのプレニル化を必要とする結合を伴う (類似性による)。質量分析により、ステージ I からステージ IV までのメラノソーム分画で特定されました。、サブユニット:GEF タンパク質 PREX1、RASGRF2、DOCK1、DOCK2、および DOCK7 と相互作用し、GDP と GTP 間の交換を促進してそれを活性化します。GTP 依存的に PARD6A、PARD6B、および PARD6G と相互作用します。PARD3、PARD6 タンパク質 (PARD6A、PARD6B、または PARD6G)、および非定型 PKC タンパク質 (PRKCI または PRKCZ) を含む四量体複合体の一部であり、上皮細胞の分極において中心的な役割を果たします。DOCK1 および ELMO1 からなる三量体複合体中に存在し、アポトーシス細胞の貪食において中心的な役割を果たします。RALBP1 とそのエフェクタードメインを介して相互作用します。PLXNB1 と相互作用します。MAP2K3、MAP3K3、CCM2、および DEF6 との複合体の一部です。BAIAP2、BAIAP2L1、CYFIP1/SRA-1、および DEF6 と相互作用します。Y.pseudotuberculosis の YPKA および PLCB2 と相互作用します。NOXA1 と相互作用します。ARHGEF2 と相互作用します。NISCH と相互作用する。、組織特異性:アイソフォーム B は主に皮膚および腸管上皮組織で同定される。大腸腫瘍では、腫瘍進行の様々な段階において、アイソフォーム B の発現が隣接する組織と比較して上昇している。、

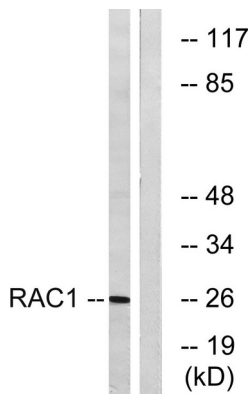
研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;ケモカイン;WNT;WNT-T 細胞軸索ガイダンス;VEGF;接着斑;接着分子結合;Toll 様タンパク質;ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害性;B 細胞抗原;Fc ε RI;Fc γ R を介した貪食作用;白血球経内皮遊走;神経栄養因子;アクチンと細胞骨格の調節;筋萎縮性側索硬化症 (ALS);ヘリコバクター ピロリ感染における上皮細胞シグナル伝達;がんにおける経路;結腸直腸がん;腎細胞がん;膵臓がん;ウイルス性心筋炎;

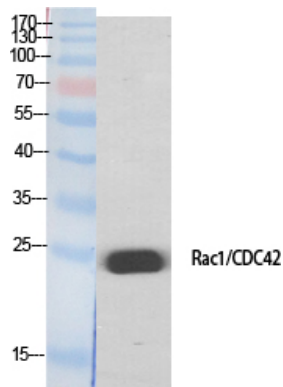
画像データ



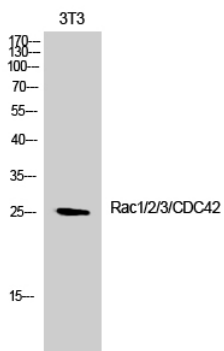
Rac1/CDC42 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



EGF 200 ng/ml 30 μ l で処理した NIH/3T3 細胞のライセートを、Rac1/CDC42 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンは合成ペプチドでブロッキングした。



Rac1/2/3/CDC42 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



Rac1/2/3/CDC42 ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析